

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 770 事業名 調査研究事業

[事業基本情報]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
取組	2	文化遺産の公開と活用

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		教育費
	項		社会教育費
	目		博物館費
	大事業		博物館事業
	事項		調査研究事業

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間		～
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	寺西 貞弘 (423-0003)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他	○	その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
博物館報第3条に基づいて、博物館資料の調査研究を行ない、和歌山市の歴史を明らかにすることによって、市民文化の向上に寄与する。	次年度以降の特別展を視野に入れ、博物館資料の調査研究を行ない、将来の特別展開催に資するとともに、学芸員が執筆した論文を毎年一冊発行する『和歌山市立博物館研究紀要』に掲載して、その成果を広く世に問う。なお、紀要は、毎年一冊発行し、500部を販売用として、希望者には1冊500円で販売している。				
実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	特別展「紀州徳川家のお姫さま」と「よみがえる和歌山の縄文世界」の出陳資料の調査と研究	特別展「城下町和歌山の画家たち」と「川端龍子」の出陳資料の調査と研究	特別展「ヘンリー杉本」と「華岡青洲」の出陳資料の調査と研究	翌年度開催予定の特別展の出陳資料の調査と研究	翌年度開催予定の特別展の出陳資料の調査と研究

2 事業コスト

事業費 千円	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	414	558	631	820	757	905	818		757	
	伸び率 (%)	-	-	52.4%		20.0%		8.1%		-7.5%	
	人件費	常勤職員	7,460	7,447	7,447	5,883	5,883	2,949	5,897		5,883
		非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0		0
	小計	7,460	7,447	7,447	5,883	5,883	2,949	2,949		2,959	
	国庫支出金										
	県支出金										
	市債										
その他	75	56	75	75	75	58	75		75		
一般財源(税等)	339	502	556	745	682	847	743		682		
所要人数	常勤職員	0.97	0.97	0.97	0.78	0.78	0.39	0.39		0.39	
	非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0		0	

3 目標及び実績

指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
活動指標	研究紀要掲載論文本数			年度目標値	7	7	7	7	7
				実績値	6	11	7		
	単位	本	全体目標値	7	全体目標達成度	85.0%	157.0%	100.0%	
	調査資料件数			年度目標値	245	245	245	245	245
			実績値	455	335	342			
			年度別達成度	185.7%	136.7%	139.6%			
成果指標	出陳資料件数			年度目標値	245	245	245	245	
				実績値	233	172	205		
	単位	件	全体目標値	245	全体目標達成度	95.1%	70.2%	83.6%	
				年度目標値					
			実績値						
			年度別達成度						

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載)  <b>A</b>
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	調査研究事業は、次年度予定している博物館事業の準備であり必要不可欠である。また、各学芸員は日夜調査研究し専門分野の知識の向上に努めている。その研究成果を研究紀要として博物館物販品として販売しているため、ある程度の受益者負担は必要であると考え。
「見直し」 「改善」案  ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	